

議事録

| | |
|-------|---|
| 会議の名称 | 第1回別府市協働のまちづくり推進委員会 |
| 開催日時 | 令和7年11月26日（水） 10:30～11:55 |
| 開催場所 | 別府市役所5階 大会議室 |
| 出席者 | 委員：吉澤委員、坂入委員、帶刀委員、荒金委員、高木委員、西原委員、吉本委員、山内委員（※谷口委員、伊藤委員 欠席） 事務局：溝部課長、首藤係長、小出主査 |

《会議の内容》

■委員長・副委員長選出

- （委員長）吉澤委員 （副委員長）谷口委員（欠席）
・委員長あいさつ・各委員自己紹介

■議題（1）別府市協働のまちづくりについて

事務局から市が進める協働のまちづくりに係る施策概要等を説明。

- ・別府市協働指針の策定及び改定の状況、別府市協働のまちづくり推進条例の施行、協働のまちづくり推進委員会の設置等の経緯について
- ・協働のまちづくり推進委員会の主な役割である施策の評価及び市長への報告（条例第10条）、市長への答申（条例第7条）について
- ・協働の基本理念（協働指針P2・条例第3条）、協働を推進していくための基本方針（5項目・協働指針P10・条例第6条）について

■議題（2）協働の取組について

事務局から市が行っている協働事業等について説明。

- ・自治連携課における中規模多機能自治の取組としてひとまもり・まちまもり協議会の活動状況について
- ・市職員によるボランティア組織である「地域応援隊」「べっぷの未来まちづくり支援補助金制度」について
- ・NPOとの協働事業や大学・民間業者等との連携協定の締結等について

【委員からの意見・感想等】

- ・自治会の運営側は同じメンバーが担っており、高齢化している。将来的に自治機能が維持できるか危惧している。
- ・子育て世代等若い世代は、自治会行事には参加しているが、自分たちが地域を作り上げていくというよりは誰かがやってくれているという感覚が強い。次の担い手を誰がするのかイメージが湧かない。

- ・移住者にとっては、自治会や地域でどのような活動が行われているか見えづらく、知らない。様々な活動が行われているようなので、住民に知つてもらう仕組み、手段があるとよいのではないか。
- ・地域活動に参加してみると、地域の伝統等を知り、良いものがたくさんあるが、担い手として参画するには負担の方が大きいのではと感じてしまうところがある。地域活動に積極的な高校生、大学生等に参加してもらい地域を活気づけていくとよいのではないか。
- ・地域活動において組織運営をしていくには、内発的な動機付けを目指していく必要がある。大学生等が時間的な制約がある中で地域コミュニティとの接点を持っていくためには、参加者自らがわくわくできるような内発的な動機付けが求められる。
- ・食糧支援などは必要としている人が多く、地域の中で様々な事情がある人を受け入れるような助け合い、支え合いの仕組みが必要だと感じている。
- ・困り事があったときに相談できる場所があることは心強いことである。個人、一団体で抱え込むことはできない中で、協働という観点から、役割分担し、互いに連携しながら支え合うことが大切である。

■議題（3） その他

事務局から今後の開催予定等について説明。

委員会終了